

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

- 開催日時： 令和6年（2024年）8月7日（水） 13時30分～14時30分
8月8日（木） 13時30分～14時30分
- 開催場所： 日本学術会議庁舎6階 6-C会議室
(東京都港区六本木7-22-34)
- 関係団体等：
(主催) 日本学術会議若手アカデミー
- 役割：
(司会) 若尾 公章（日本学術会議事務局参事官（審議第一担当）付参事官補佐）
(講師)
【1日目】
石川 麻乃（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授／日本学術会議連携会員）
木村 草太（東京都立大学政治学研究科・法学部教授／日本学術会議連携会員）
【2日目】
癸生川 陽子（東京工業大学理学院地球惑星科学系准教授／日本学術会議連携会員）
大西 楠テア（東京大学大学院法学政治学研究科准教授／日本学術会議連携会員）
- 概要：
令和6年度こども霞が関見学デーの開催に合わせ、「せんせいといっしょに自由研究～カガクから覗く(のぞく)家族と宇宙」と題し、主に小中学生をターゲットに科学の面白さを感じてもらうための講義を行った。
最初に日本学術会議並びにサイエンスカフェの趣旨について司会者より簡単に説明し、続いて各講師からの講義と聴講者（子ども達と保護者）からの質疑応答を行った。
初日は、石川先生より子育てをする動物は哺乳類に限らず、鳥類、爬虫類、魚類、昆虫まで様々な種において存在すること、子育てをするようになった理由は1つではなく、進化の過程における優位性の獲得、ホルモンの働き、子育てをすることによる生存率の向上など、様々な視点から説明ができ、そのような多角的視点を持つことが生物学の基本にあることなどが説明された。木村先生からは、自然科学系の研究者と人文科学系の研究者の違い、人間社会においてどうして婚姻という制度が必要なのか、過去の家父長制度と現在の婚姻制度との違い、夫婦別姓制度をめぐる憲法裁判の状況などの事例を紹介

介しつつ、法学における物事の考え方、考察の方法などが説明された。

聴講者からは、なぜ当該分野の研究に進もうと考えたのか、いつ研究者になろうと決めたのか、ずっと同じものを研究しているのか、などの質問が寄せられた。

二日目は、癸生川先生より自身が発見し、自身の名前が付いている小惑星が存在すること、太陽系の惑星の成り立ちの過程や星と人体の物質の組成、生命の起源となり得る有機物がどこからやってきたのか、はやぶさ2による小惑星探査の様子などが、聴講者に実物の隕石の試料に実際に触れてもらいつつ説明された。大西先生からは、宇宙探査を行うに当たってのルールが存在やどうしてそのようなルールが定められたのか、どこでどのようにしてそのようなルールが定められたのかなどが過去の大航海時代の条約との比較などを交えて紹介され、宇宙に特化した民間活動に関する法規制や宇宙デブリの処理に関する国際条約など、まだまだ未策定のルールがあることも紹介された。

聴講者からは初日と同様、なぜ当該分野の研究に進もうと考えたのか、写真で見る宇宙にはカラフルなものがあるが本当にそんな色をしているのか、どうして地球だけ海があるのかなどの質問が寄せられた。

両日ともに子ども達は真剣な面持ちで講師の話を聴き、積極的に質問をするなど、双方向でのコミュニケーションがなされ、科学の面白さを十分に伝えることができた。

6. 参加人数：

(講演者等) 計5名

(参加者) 1日目：29名 (子ども：16名・保護者13名)

2日目：48名 (子ども：26名・保護者22名)

計：77名

7. 特記事項：

なし

【1日目の様子】



【2日目の様子】

